

## アカデミックフェス 事後レポート

**企画名：** 明治大学共創教育ネットワーク

**企画名（英語）：** Co-Creating Education Network in Meiji University

**時 間：** 13：00～14：30

**会 場：** アカデミーコモン ROOM-A（A3会議室）

**登壇者：**

**コーディネーター**

阪井 和男 法学部専任教授／情報基盤本部副本部長  
明治大学サービス創新研究所所長／JMOOC 理事等

**登壇者**

齊尾 恭子 大阪電気通信大学 教育開発推進センター 准教授  
河島 広幸 明治大学 サービス創新研究所 客員研究員  
渡邊 純一 一般社団法人教育機関の情報環境構築と人財育成協議会  
(ファーストスタープロジェクト) 理事長

**開催概要：**

共創教育ネットワークは、教育に希望をもつすべての人々が参集する場づくりによって、社会と連携した能動的で主体的、対話的な深い学びが生まれるプラットフォームを創造します。社会的アクティブ・ラーニングの先進的な実践拠点を提供することで、市民性創造の場づくりを推進していきます。

**開催概要（英語）：**

The Co-creating Education Network creates a platform with help of active, independent, and interactive deep learning in collaboration with society. By creating a place where all people who have hope for education gather, we will provide advanced practice bases for social active learning and the creation of citizenship.

**開催内容：**

共創教育ネットワークは、アクティブ・ラーニングの推進を目的とし、学内外のステークホルダーと研究会等によってニーズとシーズの調査活動を進め、特定課題研究所・サービス創新研究所（代表・阪井和男）によるエクスターンシップ等の教育成果の可視化等の実践研究をもとに運動体の核づくりをしてきました。

今年度は、頭を使い倒すための「リベラルアーツ」教育を目指し、高品位なeラーニングコンテンツを開発し、JMOOCで公開する計画を立てています。ここで、高品位と

は、教育効果の高い講座の開発方法を公開し共有すること、教育効果の測定方法と可視化方法を実装すること等です。

今回は、リベラルアーツに欠落する「キャリア教育」に焦点を当てています。最初に、齊尾恭子氏からエントリー講座として構想している「創造」のためのノート&メモ入門と題して、本気のグループワークへ導く創造のためのグループワーク入門について、お話いただいた。これは、学生たちが大学入学までに形成した学びについてのイメージについて問い直す場となるようなスキルトレーニング、知識を創造するためのスキルとしてのノート・メモテイクスキルのトレーニング、知識を創造するためのグループワークスキルのトレーニングを目指すものです。

次に、河島広幸氏からは、「大学の大学教育時代における『本気のインタビュー』を活かす「キャリア教育」の開発」をお話いただいた。ここでは、鈴木賞子（成蹊大学）が長年温めてこられた構想にもとづいて、「いかに生きるか」と「キャリア教育」、そして「リベラルアーツ」との密接な関係が指摘され、第1コース：自分を知る、相手を知る、第2コース：社会を知る、大人を知る—という2つのコースを通して「本気のインタビュー」を目指すコース開発の具体例が示されました。

最後に、渡邊純一氏からは、「教育の新しい『型』を考える」と題し、キュレーションという考え方でカード型データベースのようにゆるく構造化された情報のまとまりを協働して教材コンテンツを共有環境のなかで創り上げていくためのシステム構想をお話いただいた。この構想によって、講座全体を一つのコンテンツとして扱う mooc や e-learning の弱点、講座の自由な展開が難しい、関連講座資料の活用が難しい、各大学の LMS との連携が難しい—などを克服する可能性が論じられました。

今回の企画を通じて論じられた点をまとめましょう。まず、これまでの講座開発は、学びをデザインする視点が弱かったといえます。しかし今回は、次の視点、(1) インストラクショナル・デザインによる講座構成、(2) 対話的状况の設定によるアクティブ・ラーニング実践、(3) ドラッカーのフィードバックによる体験学習の振り返りと定着、(4) 意識的・非意識的な態度変容からみる教育効果測定—による協働的なコンテンツ制作が意図されています。これによって、教育効果の高いコンテンツ制作の協働的なあり方を確立することが期待され、従来の e ラーニングの構造的問題を打破し、日本における e ラーニングの普及と推進を抜本的に変容させる可能性が浮かび上がってきました。

以上